

令和8年度愛媛大学大学院医学系研究科 看護学専攻

博士前期課程 第2次選抜試験 [小論文] 解答例・出題意図

[出題意図]

小論文のテーマ1～3は、それぞれ近年の保健医療福祉分野において注目されている。本問では、これらのテーマに対する知識だけでなく、課題に対する保健医療福祉の現状の分析力、洞察力、論理的思考力を問うものである。

[解答例]

テーマ1. 保健医療福祉職における新人教育

1. 保健医療福祉の現状、社会の情勢等について論じている

基礎教育と臨床現場との乖離を埋めるために、基礎教育の充実を図るとともに、臨床実践能力を高めるための新人職員研修の実施内容や方法、普及方策について検討し、実施に移すことが求められている。

2. 1をもとに、保健医療福祉の課題を論じている

医療の高度化や在院日数の短縮化、医療安全に対する意識の高まりなど国民のニーズの変化を背景に、臨床現場で必要とされる臨床実践能力と基礎教育で修得する実践能力との間に乖離が生じている。その乖離が新人職員の離職の一因であると指摘されている。人手不足のため、研修や指導が十分に行われず、新人が自己学習に頼らざるを得ない。若い新人と指導者との間に世代間ギャップや意識のズレが生じることもある。

3. 2をもとに、どのような対応が必要か論じている

厚生労働省¹⁾が報告しているように、臨床現場で必要とされる臨床実践能力と基礎教育で修得する実践能力との間に乖離が生じないように、実践的な研修の充実として、OJT (On-the-Job Training) やシミュレーション研修を強化し、臨床推論を含む実践的なスキルを体系的に学べる環境を整える。また、保健師の新任期現任教育に関する調査²⁾の結果、新人の主体性の欠如や、「職場全体で人材育成に取り組む体制整備や職場風土が不十分」といった新人の能力向上に結びつきにくい現任教育体制が報告されていることから、新人が安心して学べるよう、相談しやすい職場風土を醸成したり、メンター制度を導入することで、新人が学びやすい環境を整えたりする必要がある。世代に応じた教育方法の工夫とし

て、ゆとり・さとり・Z世代の新人には、余裕を持った教育体制を構築し、社会人としてのマナーを繰り返し説明することが求められる。また、新人の気持ちを傾聴し、信頼関係を育てることが重要である。

[参考資料]

1) 厚生労働白書 新人看護職員研修について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000050213.html>

2) 長谷川喜代美：保健師の新任期現任教育の課題に関する文献検討. 日本赤十字豊田看護大学紀要. 2020, 15 (1), 35-40

テーマ2. 研究活動におけるAI (Artificial intelligence) の活用

1. 保健医療福祉の現状，社会の情勢等について論じている

AIは文献レビューや論文執筆の補助に利用され、特に英語論文作成に役立っている。AIは看護記録の分析や質的研究データの解析にも活用され、大量のテキストデータを効率的に処理することが可能になっている。

2. 1をもとに，保健医療福祉の課題を論じている

AIを活用した研究では、研究者独自の考えであるのか否かを明確にすることが必要である。また、データの保護やAIの分析結果の信頼性を確保することも重要な課題である。高度なAI技術を研究に活用するには、専門的な知識やツール、資金が必要である。若手研究者や小規模な研究機関では、最新のAIツールを活用することが難しい場合がある。

3. 2をもとに，どのような対応が必要か論じている

生成AIの特性を理解し、適切なプロンプト設計と批判的吟味を行うことで、有用性を最大限に引き出せる。しかし、不正確な情報の生成（ハルシネーション）や過度な依存による執筆スキルの低下といったリスクもあるため、倫理的基準の整備と慎重な活用が求められる³⁾。高度なAIの技術を研究に活用できるよう、適切な使用方法に関するガイドラインを整備、AIの分析結果を検証する方法の開発が必要である。また、より質の高い研究を進めていくために、専門家、AI技術者、研究倫理の各専門家が協力することが重要である。

[参考資料]

3) 笠井大：医学教育の論文における生成AIの活用：研究計画立案から論文執筆までの実践的アプローチ. 医学教育, 2025, 56 (2), 113-123

テーマ3. 健康格差の縮小

1. 保健医療福祉の現状，社会の情勢等について論じている

健康格差とは，地域や社会経済状況の違いによる集団における健康状態の差であり，所得や教育，居住地域などが健康に影響を与え，医療へのアクセスや健康習慣に格差が生じることが問題視されている。

2. 1をもとに，保健医療福祉の課題を論じている

経済的な理由や地理的要因で適切な医療を受けられない人がいる。都市部と地方では医療機関の数や質に差があり，地方では専門医の不足が問題となっている。健康リテラシーが低いと，予防医療の利用率が低くなり，病気の早期発見が難しくなる。職場環境や生活環境が健康に影響を与え，ストレスや過労が健康格差を拡大させる

3. 2をもとに，どのような対応が必要か論じている

経済的な理由や地理的要因で適切な医療を受けられない人がいることから，遠隔医療の普及や無料・低額診療の拡充で，公平に医療が提供されることが必要である^{4,5)}。予防医療の普及，病気の早期発見早期治療を目指すために，健康教育を強化し，学校や職場での健康リテラシー向上を図る。健康には職場環境や生活環境が影響を及ぼすため，社会的支援の充実，地域医療の強化などが必要である。また，健康格差の解消のために，個人・地域・政府が協力し，包括的な対策を講じることが重要である^{4,5)}。

[参考資料]

4) 日本プライマリ・ケア連合学会の健康格差に対する見解と行動指針 第二版

令和4年4月14日

<https://www.primary-care.or.jp/sdh/fulltext-pdf/pdf/fulltext.pdf>

5) 和田安代：健康日本21（第三次）の12年間の取組の開始. 保健医療科学, 2024, 73(2), 68-78